

# 令和8年度 鈴鹿市立飯野小学校「学校経営の改革方針」

## 1 めざす学校像（基本理念）

### 【学校教育目標】

すべての子どもたちに居場所をつくり、生きる意欲を育む  
～ 知の教育・愛の教育・命の教育・根っこの教育を通して ～

### 【めざす学校像】

- 自尊感情を高め、お互いを認め合う教育活動
- 基礎基本を大切にし、確かな学力を育む教育活動
- かけがえのない自他の命を大切にする教育活動
- 保護者や地域の人から信頼される教育活動

## 2 めざす児童像

- (1) 自ら考え、表現する子
- (2) 自他を大切にする子
- (3) 持つ力を出せる子
- (4) 未来を思い描く子

## 3 現状と課題

### (1) 学力保障・学力向上について

#### <現状>

- ・ 国語や算数に共通して、文章を読んだり、自身の考えを言語化したりする力が低い。
- ・ 主体的、協働的に学ぶ意欲が低い傾向が見られる。

#### <課題>

- ・ 授業の中で理解したことに喜びを感じ、もっと学びたい、知りたいという意欲が低い。
- ・ 授業中で文章の内容を読み取ったり、意図を深く考えたりする場面であきらめてしまい、粘り強く学習できない。
- ・ 授業が断片的であるため、継続して学ぶことができない。

### (2) 不登校対策について

#### <現状>

- ・ 新たな不登校児童を生まないよう新規不登校傾向児童（15日以上30日未満）に焦点をあて、児童の「困り感」や「解決像」を明確にするためにほっとルーム等での児童との対話や保護者との面談、支援会議の充実に取り組んできた。22人長期欠席について改善が見られたことに関しては成果が見られた。しかし、新規児童数を0人にできなかったことは課題である。

#### <課題>

- ・ 児童との対話が、特別支援教育コーディネーターに偏りすぎ、担任などに広げ、家庭訪問などでの保護者との対話につなげることができなかった。
- ・ 児童が安心できる学級経営ができずに、不安感から教室に入れなくなってしまった児童がいた。
- ・ 教職員との信頼関係の希薄さから長期欠席につながる児童がいた。

### (3) 人権教育の充実について

#### <現状>

- ・ 全体の否定的回答割合は減少しているものの、本年度の6年生は、年々増加の傾向が見られる。また、4年生の昨年度比も増加していることをみると学年差が大きい。

#### <課題>

- ・ 学級担任や学年間での取組に差があり、教職員の人権意識の向上や統一した粘り強い指導が必要である。
- ・ 個々の児童の思いに寄り添いつつ、安心感がもてる学習規律の構築が必要である。

### (4) 校区及び地域連携と協働について

#### <現状>

- ・ 「主体的な行動がとれる（自ら考え行動できる）こども」をめざし、「自己肯定感を高め、自信をもって物事に取り組める取組」や「互いに認め合い、困り感や失敗を受け止め寄り添える関係づくり（信頼ある関係づくり）」に中学校区全体で取り組むことができている。
- ・ 幼小連携においては、日ごろから飯野幼稚園と1年生担任団を中心に研修や学習活動で連携して取り組むことができた。
- ・ 地域と連携し、児童の安全な下校や見守りに向けてすくすくパトロールを月2回実施している。
- ・ 1年生の給食や高学年の家庭科など、学習ボランティアを活用し、安全安心な学習活動を行っている。
- ・ 各種団体に依頼し、生活事故防止や非行行為防止などの取り組みや、昔の暮らしなどの学習活動などをサポートしていただいている。

#### <課題>

- ・ 中学校区においては、共通のめざす姿を設定しているものの、具体的な取組に結び付いていない。
- ・ 幼小連携においては、飯野幼稚園だけでなく、架け橋プログラムに基づき、より幅広く様々な保育園や幼稚園などと連携の必要がある。
- ・ 地域ボランティア登録者が高齢化しているとともに、減少している。
- ・ 毎年同じ団体に学習支援を依頼しているため継続性は高いが、学習内容を事前に計画し、より幅広く関連団体に依頼する必要がある。

### (5) 信頼される学校と働きやすい職場づくりについて

#### <現状>

- ・ 児童間トラブルなど保護者と連携が必要な場面では早期に対応を心掛けているが、校内の連絡体制がうまくいかず、後手になってしまうことがある。
- ・ 保護者の意図を十分把握できずに対応した結果、長期間にわたって心配をかけてしまうことがあった。
- ・ 学校だよりやメールなどにより必要な情報を早く正確に伝えることをめざし、学校アンケートでは95%以上の保護者が肯定的にとらえている。

### <課題>

- ・ 保護者にとって必要な情報をより早く正確に、児童や保護者の状況を配慮して提供を行う。
- ・ 早期対応、早期解決のために報告連絡相談の徹底を行うとともに、組織的な対応ができるよう情報ルートを適切に示す。
- ・ 児童理解を推進するとともに、保護者の背景などの状況をつかみ分析した上で保護者対応を行う。

## 4 重点目標

### (1) 教職員の指導力向上

すべての子どもたちが安心できる学習環境を整え、なりたい自分に向けて生きる意欲を高めるために、教職員それぞれがキャリアステージや校内の状況を踏まえ、授業力、児童理解力、学習規律定着力、生徒指導力などの向上させるべき力を見極め、協力協働を通して成長をめざす。

### (2) 個々に寄り添った児童対応

児童の非認知能力を向上させるために、日常的に児童の変化（表情や持ち物など）や興味関心、学習状況、仲間関係など児童とのかかわりを通してきめ細やかに把握し、学校生活のあらゆる場面で常に児童に寄り添った対応をめざす。

### (3) 学校組織体制の構築

学校目標の達成に向け、教職員が安心して教育活動に取り組めるよう、組織体制に基づいた報告連絡相談の徹底、悩みや困りごとを一人で抱え込ませないための風通しのよい職場環境の整備をめざす。また、教職員それぞれが自分の役割を意識し、責任感を持って取り組める組織づくりをめざす。

## 5 本年度の具体的行動計画

### (1) 確かな学力の定着（知の教育）

- ◎ ICTを活用した主体的・協働的な授業への改善
  - ・ 先進校等への視察による授業参観
  - ・ 「授業力UP 5★ver. 2」を意識した授業の推進
  - ・ 校内授業公開による授業力向上
  - ・ ICT授業活用研修会の実施

### (2) 人権教育・特別支援教育・心の教育の充実（愛の教育）

- ◎ 自己肯定感（非認知能力）を涵養するための仲間づくり
  - ・ 児童への肯定的な働きかけ
  - ・ 個々の成長を見取る
- ◎ 不登校・いじめ等の問題行動の未然防止及び迅速かつ適切な対応
  - ・ 児童の「困り感」や「解決像」の明確化
  - ・ 組織体制の構築
  - ・ 魅力ある学習活動の実施

### (3) 体力向上・健康・安全（命の教育）

- ◎ 自他の命を尊重する「命の教育」を計画的に実施
  - ・ 様々な事故の未然防止に関する教室の実施

### (4) 基本的な生活習慣の確立（根っこの教育）

- ◎ 基本的な生活習慣や学習・読書習慣の定着
  - ・ 保護者への啓発
  - ・ 生活チェックシートの実施

### (5) 保護者・地域との連携強化（地域とともにある学校）

- ◎ 保護者・地域と連携した児童の安全確保
  - ・ 飯野教育協議会「すくすくパトロール」の実施
- ◎ 学校からの情報発信
  - ・ 「学校だより」やホームページでの発信
  - ・ メールなどを利用し、必要な情報を早く正確に伝える。
- ◎ 架け橋プログラムに基づいた保幼との連携
  - ・ 1年生の授業参観、研修会の実施

### (6) 教職員の指導力の向上（授業力の向上）及び業務に対する意識の改善

- ◎ 若手教員の指導力の向上（授業力の向上）
  - ・ 若手教員を中心とした研修会の実施
  - ・ 学年会の充実
- ◎ 学校組織体制の強化
  - ・ 組織的な情報共有の徹底＜各種会議の定例化＞
- ◎ 働き方改革の推進
  - ・ 1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下
  - ・ 年360時間、月45時間を超える時間外労働者 0人
  - ・ 設定した日の定時に退校できた職員の割合 100%
  - ・ 放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100%
  - ・ 1人当たりの年平均休暇取得の目標日数 26日
  - ・ 5時30分に留守番電話に切り替える
  - ・ 会議が50分になったところで終了時間を伝える。
  - ・ 打ちあわせで頑張りを賞賛する。